

クル分別への気配り、心掛けが大切ではないかと思つた次第です。

一方、資源回収で得た収益金は自治会や子供会の活動資金として有効に活用しており、地域活性化の一助と共に環境維持への貢献など、一石二鳥の役割を果たしています。とは言え、地域ではまだまだモラル不足による回収出来ないゴミの不法な廃棄や資源品を分別されないままの搬出など、多くの課題があります。今回の受賞を機に、地域や地球環境美化に一步步でも貢献出来るよう、地域民の意識を高め、住みよい町内会の実現に邁進して行きたいと思ひます。



賞状を受ける高橋保健衛生部長

▼雪祥書道教室で学ぶ

高橋 周治

私は、瀬川雪祥(誠孝)先生のもとで書を学んでいます。

先生は、地域に文化活動を「学ぶ喜びを提供したい」として、花北振興センターを会場に書道教室を2014年12月に開設されました。

た。毎週土曜日午後1時半から3時まで月に3〜4回、生徒は現在、女性6人、男性1人(小生)の計7名で、和やかに楽しく、そして熱心に集中して学んでいます。私は2014年1月から。

教材は、創玄会(盛岡)が毎月発行する「北光」の競書課題を使っています。毛筆課題は、条幅、細字、かな、草書、楷書、行書とありますが、私は楷書と行書の2課題、女性陣は細字を加え3課題の人も、それぞれに進級を目指して学んでいます。文化祭の時期には、先生が独自に参考作品を準備してくれ、それを手本に作品にし、それを先生が表具に仕立ててくれます。

書いても書いても自分で納得がいくということはありません。先生に朱筆添削をしていただくと、自分は気が付かなかった点や筆の運び、特に始筆の方向・角度など、また、〇をも

らうとやる気がアップしてきます。それでも、課題の提出メ切りが近づいて来ると、今の自分



皆で学ぶ書道教室

ではこのくらいが精一杯か?と諦めて提出ということの繰り返し、そうしながらも自分の最低線を少しでも高いところにと考えています。

故吉丸竹軒先生(北日本書道専門学院創設者)がお話しておられます。「まず書いてみる、そして考える、反省し、またよく観る。そしてまた納得のゆけるまで書く。そのために枚数を重ねる。これは練習というものではない。創る苦しみだ。そして無上の楽しみでもある」と雪祥先生がおっしゃいます。『学ぶ喜び』と。『たのしみ』『喜び』を目指して、皆さんも一緒に学んでみませんか。

▼大正琴にふれて

八重樫 テイ

大正琴は、名前の通り大正時代に名古屋で作られた弦楽器で、弦に5線を引いたもので、普通の琴といえは13弦の琴のことを、琴と思つてますよね、大きな琴です。

大正琴は大きい琴の3分の1と小さく持ち歩きは楽です。大正琴の弦は5線で、1234567と数字が弦に書いてあります。右手にピックを持って、左の4本指、

小指は使いません。親人中指で弦を押して右手のピックで4本の弦を弾きます。4本しっかり押していいいと4



大正琴の練習風景

弦の音が一緒にきれいに、ドの音が出るようになります。数字の1がド、2がレ、3がミ、4がファ、5がソ、6がラ、7がシ、1がドとなります。色々な曲を引き、少人数ですが、集まれば日常のこと、体のこととかお茶もして楽しんでます。皆んな20年以上の会員さん、元気に、今、福田こうへいさんの曲が楽しくて、アイヤ子守唄をがんばっています。月2回の稽古を楽しみに来てくれます。部屋より音が聞こえますので、通りすぎずに、遠慮なく声をかけて下さい。お待ちしております。

地区だより

恒例の新年交賀会

四日町二丁目区自治会 会長 松田 廣邦

恒例の新年交賀会を1月12日、花北振興センターで開催いたします。